

# 自己評価結果公表シート

桜の宮こども園

## 1. 教育・保育 目標

「喜びをもつ子ども」（どんなことも、喜びにかえて生きる力を育てる）

- ・努力する子ども  
（自分からしようとする積極的な態度を養う）
- ・はじめのつく子ども  
（その場の状況を判断して行動をコントロールする力を育てる）
- ・人の気持ちがわかる子ども  
（いろいろな感情や情動を体験することで、人のことを思う心を育てる）

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した評価の具体的な目標や計画

- ・乳児クラス的环境構成について
- ・様々な視点から教育・保育の充実を図る

## 3. 自己評価の実施内容と評価項目の達成及び取組状況

自己評価実施時期	令和7年月2月10日（月） 14：00～15：00
参加者	【桜の宮】副園長、副主幹保育教諭、リーダー職員、保育アドバイザー、法人スーパーバイザー

評価項目	評価・結果	理 由
(1) 教育・保育の充実	B	職員一人一人が子どもと丁寧に関わっているが、子どもの興味関心から保育につなげたり、あそびを発展させたりすることには課題がある。また、職員の役割分担も明確にしていくことが必要である。
(2) 保育環境	B	試行錯誤しながら環境構成を行っているが、子どもの成長に合わせた玩具の入れ替えや動線の工夫などに課題がある。担任だけでなく、園全体で考えていくことが必要である。

## 4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価・結果	理 由
B	・教育・保育の充実 子どもの興味関心から日々のあそびを展開し、子どもが主体的にあそび、経験が広がるように計画し実践することが必要である。 ・保育環境 子どもの成長や発達に合わせて、定期的に環境を見直すことが必要である。また、玩具についても、子どもたちにあそび方やおもしろさを伝えることや、保育者自身が知識を深めることにも取り組む。

※「3」「4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

## 5. 公開保育の実施内容

実施日程	令和7年3月14日（金） 9:30～13:00
参加者	【おっこう山】 園長、スーパーバイザー、保育教諭(3名) 【北町】 乳児クラス担当職員(1名) 【山のまち】 園長、保育教諭(3名) 【桜の宮こども園】 副園長、保育教諭(7名)
実施内容	○みてみて保育 ・乳児クラスの保育の様子を見る ・食事や着替えの様子を見る ○ディスカッション

## 6. 施設関係者評価

おっこう山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランコの補助について、ひっくり返った時に手が出せる位置につく。</li> <li>・築山のおそび方のルールや職員の立ち位置を確認することが必要である。定期的を確認し、当たり前前に危険があるという意識をもつ。</li> <li>・今ある建物をどう活かしていくか工夫する。</li> <li>・乳児・幼児・児童館、互いの状況を確認していくことが必要である。</li> <li>・0歳児が、1歳児が食べているのに食べていなかった。食事の提供時間を意識しておくことが必要である。1歳児も一緒に食べているため、1歳児の職員が食べさせることもできるのではないか。園全体の給食の提供時間を知っておくことが必要である。</li> <li>・子どもが玩具を大切に扱っていた…整頓している(人形を一体ずつカゴに入れて保管している)</li> <li>・職員の子どもへの言葉かけがやさしいことで、子どもが安心してのびのび過ごしていると感じた。</li> </ul>
北町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1歳児もピアノを使って保育しているのがいいなと思った。日頃から使っていることで子どもも慣れていると感じた。</li> <li>・手作り玩具がいろいろあり、工夫が感じられた。</li> <li>・0歳児の食事は、机も空いていたため、子どもの食べたい気持ちを大切にできたらと思う。</li> <li>・着替えが、ロッカーが廊下にあることで、大変そうに感じた。良い方法があればと思う。</li> </ul>
山のまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2歳児の着替えの場面で、床にお尻をつけている子どもがいた。立って着替えるようにしたり、窓に目隠しを置くことも必要と感じた。</li> <li>・室内に遊具を置いてあることがいいなと思った。危険と思いがちだが、始めから置いてあることで、子どもも慣れている。</li> <li>・体操を限られたスペースでしていたが、子どもたちもしっかり身体を動かしていて、棚を動かさずにすぐにできるのが良かった。</li> <li>・職員の連携がスムーズで、静かだった。</li> <li>・午睡の時間が早いと感じた。</li> <li>・子どもがあそびに集中しており、玩具も散らかっていなかった。</li> <li>・0歳児保育室の扉を開けることで、もっと連携しやすくなったと感じた。</li> <li>・戸外あそびの後の水分補給のタイミングが遅く、子どももあそび始めていたため、入室・手洗い・水分補給が一連の流れでできると良い。</li> </ul>

## 7. 今後取り組むべき課題

課 題	取組み方法
教育・保育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの成長に合わせて生活リズムを見直し、園全体で共有する。</li> <li>・園庭でのあそび、職員のつき方などをルールとして共通理解し、安全への意識をもちながら援助する。</li> <li>・子どもの興味関心からあそびを展開したり、子どもと一緒に考える、子ども同士で考える機会をもつ。</li> </ul>
保育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの発達や成長に合わせて、コーナーや動線を見直し、過ごしやすい環境を作る。</li> <li>・子どもの過ごし方やあそびの場について、室内外の環境を活かしながら工夫する意識をもつ。</li> <li>・クラスを越えた連携も意識しながら、子どもが安心してあそび込めるようにする。</li> </ul>